

キース・ヘリング

Keith Haring 1958-1990 アメリカ

コンピューターでも時間がかかる。それより、今すぐに僕が自分で描いたほうがいい。待っている間にだって描きたいんだ。 キース・ヘリング

キース・ヘリングは、1980年代初頭、ニューヨークのイースト・ヴィレッジから現れ、瞬く間に世界にその名が知れたグラフィティ・アートの先駆者。アートを画廊や美術館の外に持ち出した。

1983年、キースは展覧会のために来日。石膏彫刻にドローイングを描いた「無題(トルソ)」「無題(頭部)」は、その際に制作された作品の一つ。キースはイースト・ヴィレッジのファンギャラリーでの展覧会で大成功をおさめ、ソーホーの画廊ヘメジャーデビューする直前で、初めての海外での展覧会であった。2週間の滞在のほとんどを展覧会の制作のために費やし、大きなビニールシート、石膏彫刻、机、屏風、2階建ての建物丸ごとがドローイングで覆われ、合計77点の大量展示となった。さらに、その合間の食事、買物、夜のディスコ、訪れる先々に絵を描きまくり、青山・原宿界隈がキースの絵だらけになった。

「僕の絵は、何か特定のメッセージがあるわけでもなく、どんな年代(子どもか老人まで)、どんな国、どんな人種の人たちが見てもわかるような、もっとダイレクトで、しかもハッピーな何かだ」

キース・ヘリング